



子どもにとって絵本とは

子どもにとって絵本とは道具のひとつかもしれませんが、脳を活性化させ子どもの成長を促す有効なアイテムです。



絵本の読み聞かせに期待される効果

.....



表現力と
想像力が
豊かになる

集中力と
観察力がつく

感情豊かに
育つ

愛着関係を
築ける

学習習慣が
身につく



しぜんと本が好きになる取り組み

近年ではスマートフォンの普及もあり、家庭であまり絵本を読まないという子どもも多いかもしれません。お子様には、わからない事があれば、本で調べて欲しい。本好きな子どもに育てて欲しいと思う気持ちがあれば、この幼児期がチャンスだと思います。「ママ・パパ読んで」から段々と自分でページをめくるようになってきます。これは本に対して興味を示している証で、お子様の成長段階に合わせた適切な本やいろいろなジャンル

の本に沢山触れる事が大事です。そこで、きりん幼稚園では、園所有の絵本を子どもが持ち帰り、家庭で本を読む習慣を確立しながら、幼稚園でも活動の前後で積極的に絵本の時間を取り入れています。いつの間にか本好きな子どもへと成長する事と思います。

絵本選びのポイント



子どもの年齢によって、文字数や絵の雰囲気・構成などが子どもの成長過程に沿っているか、絵本に記されている対象年齢を考慮して選ぶ事もポイントの一つになります。絵本で使われている言葉が子どもにとって魅力的かどうか、美しい日本語が使われている絵本であれば、子どもの言葉を豊かに育む効果も期待できます。また、使われている擬音語から心地よいリズムを感じる事ができれば、子どもも真似をして一緒に声を出してみたくなるかもしれません。絵本に描かれている絵が、子どもが好んで見てくれそうな雰囲気かどうか選ぶ時のポイントになります。絵を見ただけで物語が伝わってくるような表現力の豊かな絵で描かれている絵本を選ぶと、子どもは想像力を働かせて絵本の世界を旅する事ができるでしょう。きりん幼稚園には、読んだ本を記録する「絵本貸出ノート」があります。





学年のレベルに合わせて本を選ぶ

きりん幼稚園では、各年齢に合わせ本を選んでいきます。本好きな子ども達に成長して欲しいと願っています。

2歳児(未就園児クラス きりん組)

本のサイズは小さめで、うんち・おしっこなど生活習慣を整えながらできた経験を分かち合えるよう簡単な絵本が良いと思います。読み手と子どもの掛け合いができる絵本など、とても興味を持って見えています。徐々に短いストーリーの物語もわかるようになってきますよ。きりん組の日課活動の中には絵本読みが入っています。

子どもがよく見る本

- おべんとうバス ○ノンタンシリーズ
- おやおやおやさい ○ありさんどうぞ
- タンタンシリーズ ○はけたよはけたよ
- ねむねむパジャマ ○おにぎり



3歳児(年少)

3歳児は言葉が増え、短い物語を理解するようになります。桃太郎やかぐや姫などの昔話や民話の良さを伝える本もおすすめです。また、乗り物や動物、植物などの特化した絵本は、子どもの好奇心を刺激し、「もっと知りたい」という気持ちを引き出すため、興味を持っている分野に気づけるかもしれません。繰り返しのある絵本も喜ばれます。

子どもがよく借りる本

- しろくまのパンツ ○こねこのぼして ○へびくのおさんぼ
- バルボさんシリーズ ○よーいどん ○はしれはしごしゃ
- さつまのおいも ○バルンくんとおたすけきょうだい
- びよんびよんばんのかばんです。



4歳児(年中)

子どもは絵本を通じて主人公の気持ちになり、かわいそうだと同情をしたり、良かったと胸をなでおろしたり、ストーリーに沿ってさまざまな感情を抱くことができます。お化けや奇想天外なストーリーも好まれます。また、絵本は我慢やルールの学び、人間関係の理解にも役立ちます。道徳的な事も学べる時期です。シリーズ物の絵本も大好きです。

子どもがよく借りる本

- ぐりとぐらシリーズ ○トマトさん ○バーバパパシリーズ
- こいぬと10びきのおばけ ○ピーマンとかぜひきキン
- どうぶつサーカスはじまるよ ○りんごがひとつ
- トリケラトラスシリーズ ○すてきな三にんぐみ



5歳児(年長)

子どもは絵本のファンタジー世界で想像力を発揮し、独自の楽しみや平和、家族の大切さを学びます。昆虫や植物、宇宙、恐竜などの図鑑にも興味を持ちます。また、絵本は勉強の楽しさを伝えます。年長の子どもたちは年下の子に本を読んであげることもあります。絵本は子どもたちにとっての宝です。

子どもがよく借りる本

- かいじゅうたちのいるところ ○昔話シリーズ
- まっくらネリノ ○おだんごパン ○でこちゃん
- ともだちシリーズ ○しずくのぼうげん
- スイミー

